

## 会議録（要旨）

※委員会の開会に先立ち、市長より委員へ委嘱書を交付。

- 1 開 会
- 2 自己紹介
- 3 委員長及び副委員長の選任  
委員長：岡村委員  
副委員長：昼間委員 が選任される。
- 4 諮 問
- 5 市長あいさつ
- 6 議 事

### （１）八潮市多文化共生推進プランの概要及び策定スケジュールについて

- ◆資料1 八潮市多文化共生推進プランの概要及び策定スケジュールについて
- ◆資料4 八潮市外国人市民意識調査
- ◆資料5 日本人市民に対する多文化共生アンケート
- ◆資料6 ボランティア団体へのヒアリング調査

#### ＜事務局から説明＞

資料1に基づき、八潮市の多文化共生をめぐる現状および、策定スケジュールなどについて説明。

#### ＜委員からの意見、質問＞

【意見】資料4の調査に該当しない（地域社会や行政と全く関わりがない）外国人市民の方が委員の皆さんの周囲に存在するかが分かれば、アンケート調査でも拾いきれない外国人市民にも市の情報を届けられるのではと考える。

【質問】本委員会は今年度4回開催されることとなっているが、4回目にはプランが完成するものと考えてよいか。最終的には報告書のような形にまとめるのか。

→（事務局より）資料2の骨子案を参考に、委員の皆様からご意見を頂きながらまとめたい。

#### ＜まとめ＞

事務局案のとおり進めることとする。

## (2) 八潮市多文化共生推進プラン（骨子案）について

### ◆資料2 八潮市多文化共生推進プラン（骨子案）

#### 〈事務局から説明〉

資料2に基づき、プランの構成や各章の概要について説明。  
この会議では、主に第3章以降について意見をいただきたい。

#### 〈委員からの意見、質問〉

【質問】資料2の4ページに記載の国の施策のなかで、「(2)生活支援 ①居住 ウ自治会・町内会等を中心とする取り組みの推進」とあるが、市では自治会・町会等への外国人市民の加入を促進しているか。

→（委員より）どのような居住形態で転入してきたかによって、町会・自治会に入る情報が異なる。アパート等の賃貸物件に入居する場合、転入の情報が入らないため、町会独自にコンタクトをとる必要がある。町会によっては入会案内を掲示しているが、言語のハードルがあり、入会が進んでいないのではないか。

→（事務局より）市においても町会・自治会への加入促進をしており、町会・自治会加入申込書についても、日本語、中国語、英語、ベトナム語、タガログ語で作成している。

また、資料4の66ページに「町会・自治会への加入状況」の結果が掲載されているが、加入しない理由として、「加入の仕方がわからない」という回答も多いことから、行政としても改善の余地があると考えている。

【質問】言語ごと、国籍ごとにコミュニティを作っている事例をご存じの方はいるか。

→（事務局より）国籍によるコミュニティがいくつかあるということは把握しているが、現状で行政との関わりはない。

→（委員より）イスラム教の方は、モスクを中心にコミュニティが形成されているようである。

→（委員より）ある小学校はベトナム人児童が多い。PTA活動に参加頂く保護者の名前を書いていただく書類があるが、ベトナム人児童の場合、保護者の名前として同じ人の名前が記入されていると聞いたことがある。その方は日本語が上手なため、学校や先生と外国人保護者との窓口になっているようで、そうしたコミュニティは存在するのだと思う。

→（委員より）八潮市に住むウクライナ人は非常に少ないため、そうしたグループはない。

→（委員より）社会福祉協議会には、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、就労や給付金の相談が非常に多く寄せられており、なかでもインド人からの相談が圧倒的に多い。そのため、当初は八潮市にインド人が多いのだと思っていたが、資料を見るとインド人の人数は少ないため、インド人間での情報の広がり方が早いのではないかと考えている。

【質問】資料2の2ページ下部に「日本語教育は国や自治体に責務がある」とされているが、それらの内容も勘案した上で、本プランを策定するのか。

→（事務局より）現状で市における日本語教育のあり方については、市内の検討が進んでいない状況にある。現在はボランティアの方に学習支援をお願いしているが、今後は行政として何らかの支援を行うための予算についても考えるべきではないかと思う。

【質問】資料2の32ページ「(1) 日本語の学習機会の提供」について、「ボランティアによる日本語教室の開催情報の広報及び周知」「ボランティア団体による日本語教室の支援」とあるが、あくまでボランティアを前提とするように見えてしまう。これについての市のお考えを伺いたい。

→（事務局より）ご指摘のように、現在はボランティア頼みの面もあり、ボランティア団体への十分な支援もできていない状況もある。ボランティアの皆様から具体的に必要な支援や行政が担当すべき内容のご提案があれば、プランに取り入れ取り組んでいくことができるのではないかと考える。

【提案】資料2の32ページ「(2) 日本語学習支援者の確保・育成」に「日本語学習をサポートするボランティアや指導者の確保」とある。自身も何十年ボランティア活動を行うなかで、ボランティアの取組みは非常に重要であり、市民が日本語学習において大きな役割を果たしていると思っている。しかし、「指導者の確保」については、できればボランティアではなくて、専門知識を持つ指導者を配置して公的機関を中心に行ってもらい、ボランティアが補完していくシステムができれば素晴らしいと思う。

【提案】学校の受け入れ体制の差により、児童の日本語能力や環境に差が出てしまっているという事例があるため、そのような部分を公的な機関で調整し、学齢期の子どもたちへの対応をして頂けるとありがたい。

【質問】学校に外国人児童生徒を指導する体制は整っているのか。

→（委員より）日本語学習担当の先生や日本語指導のため部屋は存在するが、体系的な指導が行われていないのが現状と考える。学校によって指導内容には大きな差がある。

→（委員より）加配の日本語指導の先生方から相談を受けることがある。会話をしながら楽しく日本語を覚えるための指導方法や教材があるのだが、そうした教材を知らなかったと言われる先生が多い。教育委員会に教材を揃えて頂き、各学校に必要なに応じて貸し出すシステムができるとよい。

## 7 その他

### (1) 次回の委員会について

- ・次回策定委員会については、10月上旬を予定。

## 8 閉 会

以 上